専門学校 健祥会学園　保育学科　カリキュラムマップ

【ディプロマポリシー】

| | |
|---|---|
| DP1：人間力 | ・コミュニケーション能力や協調性・社会性を有し、保育士・幼稚園教諭としての自覚を持ち、「心と心を繋ぐ」保育の実現を目指すことができる |
| DP2：専門力 | ・修得した知識や技術を活用しながら保育の現状を理解することができる<br>・乳幼児の発達段階や取り巻く環境、課題を発見し解決することができる |
| DP3：実践力 | ・専門職としての知識と技術を身に付け、乳幼児の実態を理解し円滑な支援・指導を行うことができる<br>・乳幼児の教育に携わる使命感や責任感、探求心を持ち、常に自己の保育実践を反省・評価し、改善していこうとする向上心を持ち続けることができる |

| 科目区分 | | 科目名 | 開講年次 | 時間 | 履修方法 | ディプロマポリシーの項目番号 | | | 教授内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | DP1 | DP2 | DP3 | |
| 教養科目 | 教養科目 | 英会話 | 1 | 30 | 演習(2) | ○ | | ○ | 日常英会話の基本や保育の際の英会話文を理解し、英語でのコミュニケーションをとることができるようになる。 |
| | | 健康科学 | 1 | 15 | 講義(1) | | ○ | ○ | 健康づくりに関わる方法論としてのスポーツを知り、その多様性及び社会的役割や価値について学習する。生涯の健康づくりの基礎をなす幼児期における適切な指導を行うため、健康スポーツの繋がりを理解する。 |
| | | 日本国憲法 | 2 | 30 | 講義(2) | | ○ | | 近代立憲主義の憲法は、民主的統治機構のしくみと人権保障を定めており、日本国憲法は、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の原則を掲げている。これらの原則を理解し、基本的人権の内容、統治の仕組みなど日本国憲法の意義・概要について学ぶ。 |
| | | 生涯スポーツ | 1 | 30 | 実技(1) | | ○ | ○ | 生涯を通じスポーツをすることは、心身の健康を保つために非常に重要である。生涯スポーツとしてのゲートボールのルールや打撃方法を知り、審判や競技ができるスキルを身に付ける。 |
| | | 国語表現 | 1 | 15 | 演習(1) | ○ | | | 日本語を読み書きする能力（リテラシー）、あるいは的確な日本語で自分の意思を相手に伝達する能力の重要性が大きく問われている。日本語を読み書く力を養い、自分の考えを文章で表現する力を養う。 |
| | | 情報処理入門 | 1 | 30 | 演習(2) | | | ○ | パソコンの普及によって、情報システムを活用する技能は、現代人の基本的な技能として定着してきた。中でも電子メールを含めた文書処理（ワードプロセッシング）は、もっとも基本的な技能で、情報システムの仕組みを理解するとともに、その活用方法の基礎を学ぶ。 |
| | | キャリア形成入門 | 1 | 15 | 演習(1) | ○ | | | コミュニケーションスキルとしてアサーティブな対応について学習し、ロールプレイングでそれを実践することで、円滑な人間関係を築く方法を習得する。 |
| | 保育の本 | 保育原理 | 2 | 30 | 講義(2) | | ○ | ○ | 保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本、保育の思想と歴史的変遷について理解する。また。保育における養護の視点も含め、保育の現状と課題について理解する。 |
| | | 教育原理 | 1 | 30 | 講義(2) | | ○ | ○ | 乳幼児期の教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関連性、教育の思想と歴史的変遷、教育の制度、教育の実践、生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。 |
| | | 子ども家庭福祉 | 2 | 30 | 講義(2) | | ○ | ○ | 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷、子どもの人権擁護、子ども家庭福祉の制度と実施体系、子ども家庭福祉の現状と課題、貧困家庭や外国籍の子ども等も含めた子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 本質・目的に関する科目 | 社会福祉 | 1 | 30 | 講義(2) | ○ | ○ | ○ | 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、社会福祉の制度と実施体系、社会福祉における相談援助、社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み、社会福祉の動向と課題について理解する。 |
| | 子ども家庭支援論 | 2 | 30 | 講義(2) | | ○ | ○ | 子ども家庭支援の意義と役割、保育士による子ども家庭支援の意義と基本、子育て家庭に対する支援の体制、多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。 |
| | 社会的養護Ⅰ | 1 | 30 | 講義(2) | | ○ | ○ | 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷、社会的養護の基本、社会的養護の制度と実施体系、社会的養護の対象・形態・専門職、社会的養護の現状と課題について理解する。 |
| | 保育者論 | 2 | 30 | 講義(2) | ○ | ○ | ○ | 保育者の役割と倫理、保育士の制度的位置付け、保育士の専門性、保育者の連携・協働について理解する。また、お互いに専門性が発揮できる組織作りを含めた保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。 |
| 保育の対象の理解に関する科目 | 保育の心理学 | 2 | 30 | 講義(2) | | ○ | ○ | 保育実践に関わる発達理論や子どもの発達に関わる心理学、乳幼児期の子どもの学びの過程や特徴についての基礎的な知識を習得し、発達を捉える視点、子どもの発達過程、子どもの遊びと保育について理解する。 |
| | 子ども家庭支援の心理学 | 2 | 30 | 講義(2) | | ○ | ○ | 乳幼児期から成人期・老年期における生涯発達について、家族や家庭の理解、子育て家庭に関する現状と課題、子どもの精神保健とその課題について理解する。 |
| | 幼児の心理学 | 1 | 30 | 演習(2) | | ○ | ○ | 子どもの実態に応じた心身の発達や学びの把握、子どもを理解する視点、子どもを理解する方法、子どもの理解に基づく発達援助について理解する。 |
| | 子どもの保健 | 2 | 30 | 講義(2) | | ○ | ○ | 子どもの心身の健康と保健の意義、子どもの身体的発育・発達と保健、子どもの心身の健康状態とその把握、子どもの疾病の予防及び適切な対応について理解する。 |
| | 子どもの食と栄養 | 2 | 30 | 演習(2) | | ○ | ○ | 子どもの健康と食生活の意義、栄養に関する基本的知識、子どもの発育・発達と食生活、食育の基本と内容、家庭や児童福祉施設における食事と栄養、食物アレルギーなどを含む特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 |
| | 保育の計画と評価 | 1 | 30 | 講義(2) | | ○ | ○ | 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価、全体的な計画の作成等、全体的な保育の計画と評価の基本、保育所における保育の計画、保育所における保育の評価について理解する。 |
| | 保育内容総論 | 1 | 30 | 演習(2) | ○ | ○ | | 保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容、保育の基本を踏まえた保育内容の展開（保育の基本的な考え方）、保育の多様な展開について理解する。 |
| | 健康 | 1 | 15 | 演習(1) | ○ | ○ | ○ | 保育における子どもの生活や遊びを「健康」の視点から総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態や状況に即した援助や関わりについて学ぶ。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目Ⅰ | 保育の内容・方法に関する科目 | 幼児と人間関係 | 1 | 15 | 演習(1) | ○ | ○ | ○ | 保育における子どもの生活や遊びを「人間関係」の視点から総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態や状況に即した援助や関わりについて学ぶ。 |
| | | 幼児と環境 | 1 | 15 | 演習(1) | ○ | ○ | ○ | 保育における子どもの生活や遊びを「環境」の視点から総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態や状況に即した援助や関わりについて学ぶ。 |
| | | 幼児と言葉 | 1 | 15 | 演習(1) | ○ | ○ | ○ | 保育における子どもの生活や遊びを「言葉」の視点から総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態や状況に即した援助や関わりについて学ぶ。 |
| | | 幼児と造形表現 | 1 | 15 | 演習(1) | ○ | ○ | ○ | 保育における子どもの生活や遊びを「造形表現」の視点から総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態や状況に即した援助や関わりについて学ぶ。 |
| | | 幼児と健康 | 2 | 15 | 演習(1) | ○ | ○ | ○ | 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等、保育所保育指針に示される保育の内容を踏まえて、「幼児と健康」の観点から、子どもの生活や遊びを豊かにするため、子どもの健康や運動を中心に必要な技術や知識を学び実践する。 |
| | | 造形表現（指導法） | 1 | 30 | 演習(2) | | ○ | ○ | 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等、保育所保育指針に示される保育の内容を踏まえて、「造形表現」の観点から、子どもの生活と遊びを豊かにするために必要な技術や知識を学び実演する。 |
| | | 音楽（理論） | 1 | 15 | 演習(1) | | ○ | ○ | 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等、保育所保育指針に示される保育の内容を踏まえて、「音楽」の観点から、子どもの生活と遊びを豊かにするために、楽譜を読む基礎から学び、保育現場で良い音楽を演奏するための基礎を培う。 |
| | | 幼児と音楽表現Ⅰ | 1 | 15 | 演習(1) | | ○ | ○ | 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等、保育所保育指針に示される保育の内容を踏まえて、「音楽」の観点から、子どもの生活と遊びを豊かにするために必要な技術や知識を理解し、器楽や声楽を中心に演習する。 |
| | | 幼児と音楽表現Ⅱ | 1 | 15 | 演習(1) | | ○ | ○ | 「幼児と音楽表現Ⅰ」で習得したことを踏まえて、子どもの生活と遊びを豊かにするために必要な技術や知識を理解し、器楽や声楽を中心に演習する。弾き歌いに必要となる鍵盤楽器の基礎を身に付けるための演習をする。 |
| | | 音楽表現技術Ⅰ | 2 | 30 | 演習(2) | | ○ | ○ | 「幼児と音楽表現Ⅰ」「幼児と音楽表現Ⅱ」で習得したことを踏まえて、子どもの生活と遊びを豊かにするために必要な技術や知識を理解する。保育実習や保育現場で必要となる声楽やピアノ実技を中心に演習する。 |
| | | 音楽表現技術Ⅱ | 2 | 30 | 演習(2) | | ○ | ○ | 「音楽表現技術Ⅰ」で習得したことを踏まえて、子どもの生活と遊びを豊かにするために必要な技術や知識を理解する。保育実習や保育現場で必要となる声楽やピアノ実技を中心に演習する。 |
| | | 乳児保育Ⅰ | 1 | 30 | 講義(2) | | ○ | ○ | 乳児保育（3歳未満児）の意義・目的と役割、乳児保育の現状と課題、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育、乳児保育における連携・協働について理解する。 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 乳児保育Ⅱ | 2 | 15 | 演習(1) | | ○ | ○ | 乳児保育（3歳未満児）の基本、乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実態、乳児保育における配慮の実際、乳児保育における計画の実際について、演習の中で理解する。 |
| | | 子どもの健康と安全 | 2 | 15 | 演習(1) | | ○ | ○ | 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助、保育における健康及び安全の管理、子どもの体調不良等に対する適切な対応、感染症対策、保育における保健的対応、健康及び安全の管理の実施体制について理解する。 |
| | | 幼児への特別な支援 | 2 | 30 | 演習(2) | | ○ | ○ | 障害児保育を支える理念、障害児等の理解と保育における発達の援助、障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際、家庭及び自治体・関係機関との連携、障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題について理解する。 |
| | | 社会的養護Ⅱ | 2 | 15 | 演習(1) | | ○ | ○ | 子どもの理解を含めた社会的養護の内容、社会的養護の実際、社会的養護に対する支援の計画と記録及び自己評価、社会的養護に関わる専門的技術、今後の課題と展望について理解する。 |
| | | 子育て支援 | 2 | 15 | 演習(1) | | ○ | ○ | 保育士の行う子育て支援の特性、保育士の行う子育て支援の展開、保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）について理解する。 |
| | 保育実習 | 保育実習Ⅰ（保育所） | 1 | 90 | 実習(2) | ○ | ○ | ○ | 保育所の役割と機能、子どもの理解、保育内容・保育環境、保育の計画・観察・記録、専門職としての保育士の役割と職業倫理について理解する。 |
| | | 保育実習Ⅰ（施設） | 1 | 90 | 実習(2) | ○ | ○ | ○ | 施設の役割と機能、子どもの理解、施設における子どもの生活と環境、計画と記録、専門職としての保育士の役割と倫理について理解する。 |
| | | 保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所） | 1 | 30 | 演習(2) | ○ | ○ | ○ | 保育実習の意義、保育の内容と課題の明確化、実習に際しての留意事項（子どもの人権と最善の利益、プライバシーの保護と守秘義務等）、実習の計画と記録について理解し、事後指導における実習の総括と課題を明確にする。 |
| | | 保育実習事前事後指導Ⅰ（施設） | 1 | 15 | 演習(1) | ○ | ○ | ○ | 保育実習の意義、保育の内容と課題の明確化、実習に際しての留意事項（子どもの人権と最善の利益、プライバシーの保護と守秘義務等）、実習の計画と記録について理解し、事後指導における実習の総括と課題を明確にする。 |
| | 総合演習 | 保育実践演習 | 2 | 30 | 演習(2) | ○ | ○ | ○ | 学びの振り返り、保育に関する現代的課題の分析に基づく探求、またそれらを踏まえて、自身の習得した知識・技術等と保育に関する現代的課題等から、自己の課題を把握し、そのうえで目指す保育士像や今後に向けて取り組むべきことを明確にする。 |
| | 保育の本質・目的に関す | 教育方法論 | 1 | 30 | 講義(2) | | ○ | ○ | 乳幼児期の教育現場（保育所・認定こども園）における教育方法には、小学校以降とは異なる特性があるため、基本原理を理解し、その知識を活かし、遊びを中心とした教育実践につなげ、実践力の向上を目指す。 |
| | | 教職概論 | 1 | 30 | 講義(2) | | ○ | | 乳幼児期の教育現場における保育職・教職の意義や役割、職務内容などを理解し、幅広い職場に対応すべき保育者としての資質や社会貢献についての意識付けを行い、専門職としての見識を深める。 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目Ⅱ | る科目 | 教育相談 | 2 | 30 | 演習(2) | | ○ | ○ | 保育現場では子どもたちの精神的・身体的な発達支援だけでなく、保護者への育児支援にも多大な期待が寄せられている。判断や対応によっては事態が複雑化・深刻化することもあるため、カウンセリングマインドをいかした支援について学び、ロールプレイング等により実践力を身に付ける。 |
| | 保育の対象の理解に関する科目 | 幼児の観察と理解Ⅰ | 1 | 30 | 演習(2) | ○ | ○ | ○ | 早い段階から保育士の業務内容がイメージできるよう、実際に保育園等へ出かけ、各園の特色や乳幼児の観察、関わりを通して理解する。また、実体験で学んだことを振り返り、保育への理解を深める。 |
| | | 幼児の観察と理解Ⅱ | 2 | 30 | 演習(2) | ○ | ○ | ○ | 実体験で学んだことを振り返り、保育園・幼稚園・認定こども園での実務に必要な知識と技術が身につくよう演習を行う。また、様々な幼児の姿を想定しながら計画し、演習することで幼児の理解を深める。 |
| | | 幼児の観察と理解Ⅲ | 2 | 15 | 演習(1) | ○ | ○ | ○ | 「幼児の観察と理解Ⅰ」で習得したことを踏まえて、保育実習や授業での学びを振り返り、計画し、演習を重ねることで幼児への理解を深め、現場で活かせる実践力を身に付ける。 |
| | 保育の内容・方法に関する科目 | 児童文化 | 2 | 15 | 演習(1) | | ○ | ○ | 絵本、児童文学、唱歌、紙芝居、児童劇などの児童文化財について広く理解し、学生自身が得意分野を活かせる文化財の実践方法を習得する。また、子どもが興味、関心を持てるような文化的活動の促し方について理解する。 |
| | | 幼児体育 | 2 | 15 | 演習(1) | | ○ | ○ | 子どもの各年齢に応じた指導の重要性や体づくりの意義を理解し、その指導方法を身につける。また、運動遊びに使用する遊具や玩具、教材等の活用方法についても実体験を通して理解する。 |
| | | 言語表現 | 2 | 30 | 演習(2) | | ○ | ○ | まず自らが言語での表現力を身に付けることと、子どもたちの言語表現の支援のために保育者として必要なものは何かを、具体的に考察していく。さまざまな言語表現に触れ、その使い方や基本的な技法を体験し、豊かな情操を育み、保育者としての基本的な知識と技術を身に付ける。 |
| | | 音楽表現（指導法） | 1 | 15 | 演習(1) | | ○ | ○ | 音・音楽による表現を主として、動きなど様々な表現で自己表現し、他者の表現を受け取ることも経験する。また、年齢や月齢に応じた歌遊び等を学び、乳幼児が音楽分野における表現力を発揮できるような指導法を身に付ける。 |
| | | 劇あそび（指導法） | 2 | 15 | 演習(1) | | ○ | ○ | 創造性を豊かにするねらいのもと、いろいろな表現活動やオペレッタの実践を通して、感性を磨きイメージ豊かに様々な表現力を身につける。 |
| | 保育実習 | 保育実習Ⅱ | 2 | 90 | 実習(2) | ○ | ○ | ○ | 保育所の役割や機能の具体的展開、観察に基づく保育の理解、子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携、保育計画の作成・実践・観察・記録・評価、保育士の業務と職業倫理を理解し、自己の課題を明確にする。 |
| | | 保育実習事前事後指導Ⅱ | 2 | 30 | 演習(2) | ○ | ○ | ○ | 保育実習による総合的な学び、保育の実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について理解し、事後指導における実習の総括と評価で課題を明確にする。 |
| | | 人形劇 | 2 | 30 | 演習(2) | | ○ | ○ | 子どもと一緒に表現あそびができる保育者の育成を目標とし、そのために必要な保育者の表現者としての資質を養うことを目的とする。人形劇の様々な表現技法を授業内で体験することを通して、保育の現場で活用できる実践力を身に付ける。人形劇をするためのチームワークについても学習する。作品を制作、発表する。 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 特設科目 | 特設科目 | 食育Ⅰ | 2 | 15 | 演習(1) | ○ | ○ | ○ | 「食育」の意義とその必要性について理解し、食を通じた子どもの健全育成のねらいや食育の趣旨を習得する。また保育者として、保育との関連のなかで、子どもたちの「生きる力」を育てる「食育」についての理解を深めていく。 |
| | | 食育Ⅱ | 2 | 15 | 演習(1) | ○ | ○ | ○ | 「食育」の意義とその必要性について理解し、食を通じた子どもの健全育成のねらいや食育の趣旨を習得する。また保育者として、保育との関連のなかで、子どもたちの「生きる力」を育てる「食育」についての理解を深めていく。 |
| | | まなび学Ⅰ | 1 | 60 | 演習(4) | ○ | ○ | ○ | 保育における事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、見学、体験を通して習得する。また、子どもの体調不良等に対する適切な対応や保育における感染症対策について具体的に学び、理解する。 |
| | | まなび学Ⅱ | 2 | 30 | 演習(2) | ○ | ○ | ○ | これまでの学びを生かし、少子高齢化や多様性等、現代社会の動向を探求する。社会資源を活用し、その成果をまとめ、自らの人間性と専門性の向上に努める。 |